

# 予算編成の基本的考え方

## みどりの風吹くまちビジョンに基づく初の本格予算

平成 28 年度一般会計予算額 2,599 億 6,756 万円

### 編成のポイント

- (1)「みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン」を着実に推進
- (2) 持続可能な財政基盤の構築

区は、昨年 3 月に新しい区政運営の方向性を示す「みどりの風吹くまちビジョン」を、6 月には、ビジョンの実施計画であるアクションプランを策定しました。ビジョンでは、区政が直面する重要課題について、政策を総合的、体系的に示しました。

現在、ビジョンに掲げた政策を実現するための具体的な仕組みや態勢を、区民の視点から改めて見直す「区政改革」に取り組んでいます。その一環として 12 月には、区民とともに「練馬区の『これから』を考える資料」を作成、公表しました。区民の皆さま、区議会のご意見を伺ったうえで、本年中に「(仮称)区政改革計画」を策定いたします。

平成 28 年度当初予算は、ビジョン、アクションプランに基づき編成する初めての本格予算です。編成にあたっては、ビジョンおよびアクションプランに掲げた事業の進捗状況をチェックし、着実に推進することを最優先としました。その上で、計画事業にとどまらず、施策を一層推進させる新規事業も積極的に予算化しました。また、区政改革について、区民サービスの向上や区政への区民参加の促進などに年度当初から取り組むことといたしました。

一方、持続可能な財政運営を堅持する観点から、歳入面では、国・都の財源活用に努めました。社会資本形成に資する事業においては、後年度負担に配慮しつつ、起債を積極的に活用しました。歳出面では、枠配分予算においてゼロシーリングを徹底し、事業の必要性や財政的効果の把握に留意するなど事業の精査を行いました。さらには中長期を見据えた備えとして、新たな特定目的基金を創設するなど基金の見直しを行いました。

## 今後の財政運営の見通しと課題

わが国の経済情勢は、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待されています。ただし、中国を始めとする海外景気が下振れし、わが国の景気が下押しされるリスクがあることなどから注視が必要です。

国は、平成 26 年度税制改正において、都市と地方に税収の格差があることを理由に、地方税である法人住民税の一部を国税化し、地方交付税の原資とする見直しを断行しました。これにより練馬区の基幹的歳入である特別区財政調整交付金は毎年 50 億円を超える減収となります。先般、政府が決定した平成 28 年度税制改正では、平成 29 年度から法人住民税の国税化が拡大されることとなり、区の歳入は、さらなる減収を余儀なくされます。また、企業版「ふるさと納税」制度の創設、消費税の軽減税率の導入なども少なからず区の歳入にマイナスの影響をもたらすこととなります。

このような状況下における当面の区財政の見通しは、歳入面では、区税および地方消費税交付金において一定の伸びが期待できますが、景気の先行きは予断を許しません。特別区財政調整交付金は、法人住民税の国税化拡大により、引き続きマイナス傾向となることが予測されます。

歳出面では、少子高齢化の進展により扶助費をはじめとした社会保障関係経費の増大が不可避です。また、公共施設の改修改築経費の急増にも対処していくことが必要になります。このため、区の財政運営はさらに厳しさを増すことが確実です。

厳しい財政状況の下、持続可能な財政運営を堅持していくため、事務事業の不断の見直しを進めるとともに、収納対策の強化、特定財源の活用をはじめとした財源の確保に努めていきます。

### みどりの風吹くまちビジョンに掲げた施策関連予算

- 子どもの成長と子育ての総合的な支援（51 億 3,900 万円）
- 安心して生活できる福祉・医療の充実（23 億 600 万円）
- 安全・快適な都市の実現に向けた基盤整備（101 億 2,500 万円）
- 練馬区の魅力を楽しめるまちづくり（52 億 1,500 万円）
- 新たな区政の創造（39 億 4,600 万円）

### みどりの風吹くまちビジョン関連予算額

267 億 3,100 万円